



◆生育状況については果樹総合情報を参照

◆当面する重点作業について

1. 春季干ばつ対応として、晴天が続く乾くようであれば、定期的なかん水により結実を助ける。
2. 人工受粉を励行し、結実を安定させる。共同開葯所を積極的に活用する。
3. 凍霜害防止対策を万全に取り組む。この時期は、急に寒の戻りがあるので要注意する。

《プルーン・すもも》

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期: 開花始め(花が1~2輪咲き始めたら散布) 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
機能性展着剤アプローチBI	100ml	—	—
ロブラール水和剤	66g	灰星病・灰色かび病	前日

3. 散布量: 10a当り=350ℓ以上

4. 留意事項

- ①アブラムシ発生が心配される場合は、ウララDF4,000倍(水100ℓ 当り25g)を加用散布する。
- ②主幹にヤニが出て胴枯症状が出ていたら削り取り、塗布剤のトップジンMペーストを塗る。

◆プルーンの人工受粉実施について

トレジディ・グランドプライズ・くらしまは、特に実止まりが悪いので必ず人工受粉を行う。

プルーンの交雑和合性 (記号:◎=最良 ○=良好 △=やや良好 ×=不良 —=不明・試験中)

※下記表を参考に、交雑和合性が良く、その年の開花時期が合うもので行う。

[開花時期 ※年により差がある。早い ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 遅い]

交配が必要もしくは、 した方がよい品種	シユガー	くらしま	オータムキュート	トレジディ	プレジデント	サマーキュート	アーリーリバー	ベイラー	くらしま早生	サンタス	グランドプライズ	スタンレイ
くらしま	○	×	○	○	—	○	×	○	△	—	×	○
オータムキュート	△	◎	×	○	○	○	—	△	—	—	—	—
トレジディ	○	◎	○	×	○	—	○	△	○	—	△	—
プレジデント	◎	—	—	◎	×	—	◎	△	—	—	○	◎
サマーキュート	◎	◎	—	△	◎	○	—	△	◎	◎	—	—
ベイラー	◎	—	—	◎	○	—	◎	×	—	—	○	○
くらしま早生	○	○	—	○	—	—	○	×	×	—	△	—
サンタス	◎	—	—	—	◎	—	○	×	○	△	—	—
グランドプライズ	○	△	—	○	△	—	◎	△	○	—	×	○

◆すももの人工交配実施について(交配が必要なため必ず実施する)

すももの交配 (記号:◎=最良 ○=やや良 △=結実低い ×=結実なし —=不明)

受粉樹 果実	早大 生石	ロー ザ サン タ	ソ ル ダ ム	太 陽	ぜん り よ う 紅	ト エ レ フ ア	ッ ド ハ リ ウ
大石早生	×	◎	◎	◎	—	—	◎
サンタローザ	○	△	◎	◎	—	—	◎
ソルダム	◎	◎	×	◎	—	—	◎
太陽	×	○	×	×	×	○	○
紅りょうぜん	○	◎	○	×	×	—	◎
貴陽	×	×	×	×	×	△	△
秋姫	○	—	×	○	—	—	◎
シナノパール	—	—	×	○	—	—	○

《あんず》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 80%落花時 散布日 月 日

2. 調合量: 水1000l当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
アンビルフロアブル	100ml	うどんこ病・灰星病	7日
ウララDF	25g	アブラムシ類	7日
マイコシールド	66g	かいよう病	14日

3. 散布量: 10a当り=4000l以上

4. 留意事項

- ① 前回散布との間隔は12日以内を厳守し、花ビラが80%以上落ちたら早めに実施する。生育が平坦部と山手では3~5日のずれがあるので、自園の状況を見て適期に行う。
- ② 花腐れの発生原因の一つに、散布間隔の空き過ぎと散布量不足がある。開花初めの散布からは12日以内にし、散布量は4000l以上散布する。特に信州大実には、樹上部までかけムラのないよう注意。
- ③ 昨年、かいよう病の発生が見られなかった園は、マイコシールドに代えてトレノックスフロアブル 500倍(水1000l当り 200ml)を使用してもよい。
- ④ カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル 1,000倍(水1000l当り 100ml)を加用散布する。
- ⑤ アビオンEに代えて、固着性展着剤K、Kステッカー3,000倍(水1000l当り 33ml)を使用してもよい。ただし、最後に調合する。又は、普通展着剤 10,000倍(水1000l当り 10ml)を使用してもよい。

《なし》

◆芽たたき・摘蕾の実施について

1. 目的・効果

貯蔵養分の無駄な消費を防ぎ、大玉生産につながるよう実施する。摘果作業の省力にも役立つので必須。

2. 落とす蕾

- 1) 主枝・亜主枝・側枝の先端部のえき芽花はすべて摘蕾する。
- 2) 短果枝着生のために誘引した2年枝のえき芽花もすべて摘蕾する。
- 3) ラフランスは2~4番花を中心に成らすので番花の遅い花を摘蕾する。

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期: 開花前 散布日 月 日

2. 調 合 量: 水1000当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
サムコルフロアブル	20ml	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日
トレノックスフロアブル	200ml	黒星病・黒斑病・赤星病	30日

3. 散 布 量: 10a当り=棚栽培3000/立木栽培3500

4. 留意事項

- ①アブラムシの発生が心配される場合は、ウララDF4,000倍(水1000当り25g)を加用散布する。
- ②赤星病は雨が多いと感染が多くなるので、開花前後とその後の防除間隔が空かないようにする。植木で「ビャクシン」があると感染しやすい。1km位は感染範囲となるので注意する。

◆人工受粉・毛バタキ交配の実施について

1. 結実確保と大玉生産を目的に必ず実施する。(交配する花粉を多めに用意する。)
2. 日本なしの場合、ヤーリー・松島・豊水が利用できる。(3~4番花を中心に受粉する。)
3. 南水は3~4番花を中心に・ラフランスは2~4番花を中心に受粉する。
4. 西洋ナシの場合、自家不和合のため自分の花粉では実止まりが悪い。(他の花粉が必要)
5. ラ・フランスには和なし(幸水・豊水・二十世紀)やシルバーベルを、その他の品種はラ・フランスの花粉を採集して実施する。開花の順序を見ると基部から開花してきて2~4番目にあたる果実が肥大も良く果形がよいので、2~4番花をねらって受粉を行う。

◆溶液受粉について(受粉作業の試行技術・省力化)

1. 「溶液受粉」とは

溶液に溶かした花粉を、柱頭に散布する受粉方法で、受粉作業の省力化を目的としている。

2. 調 合 量: 10作成に当り

蒸 留 水 … 10	} 液体増量剤	} 花粉溶液
粉 末 樹 寒 天 … 1g		
グ ラ ニ ュ ー 糖 … 100g		
純 花 粉 … 3g		

3. 「液体増量剤」の作成…加熱した蒸留水10に粉末寒天1g・グラニュー糖100gを混ぜる。

4. 室温になった「液体増量剤」に梨の純花粉を混ぜて「花粉溶液」を作る。

「花粉溶液」はよく混濁させる。花粉を入れてから3時間以内に使い切る。

5. 純花粉の用意について

※開葯し乾燥した粗花粉100gから花カスや花糸を取り除いて取れる純花粉は15g程度である。

※純花粉30g(乾燥)を用意するためには脱穀直後の重さで800g程度の粗花粉(生)必要となる。

6. 散布量: 10a当100必要になります。(純花粉で30g必要)

市販のハンドスプレーを使用するとよい(蓄圧式のスプレーは花粉に影響がある可能性あり)

《オウトウ》

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期: 開花始 散布日 月 日

2. 調合量: 水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
パスワード顆粒水和剤	100g	灰星病・幼果菌核病	前日

3. 散布量: 10a当り4000

4. 注意事項

①カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル 1,000 倍(水 1000 当り 100ml)を加用散布する。

◆人工受粉の実施について

主力の佐藤錦は、実止まりが悪いので必ず受粉を行う。

表1. 佐藤錦の交雑和合性 (記号: ○印=良好 ×印=悪い)

受粉樹(品種)	紅秀峰	高砂	ナポレオン	香夏錦	佐藤錦	正光錦
佐藤錦	○	○	○	○	×	○

《うめ》

◆かいよう病対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期: 展葉初期(80%落花期) 散布日 月 日

2. 調合量: 水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
マイコシールド	66g	かいよう病	21日

3. 散布量: 10a当り4000

4. 注意事項

①昨年かいよう病が発生した場合は必ず散布する。

《栽培に関する営農技術員への問合せ》 令和6年4月1日より

新採用職員予定 (篠ノ井西部): 293-4668 / 外谷 (篠ノ井東部): 080-8048-6602

篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤 (信更): 090-7179-9866 / 伊藤 (松代・情報担当): 080-2239-6816

松橋 (川中島): 090-4816-6297 / 根津 (更北) 080-1203-8576

松澤 (若穂) 080-1191-5166 / 寺澤 (全域・情報担当・編集): 080-1188-5229

吉澤 (全域・情報監修): 090-2543-0365

栽培に関しての電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー (流通センター長兼務) 松坂 (篠ノ井西部) 080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部 (本所): 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課: 299-3311